

亀岡市地域再エネ導入ゾーニング
(令和5年度)

アンケート報告書

令和6年3月

亀岡市

目次

| | | |
|-----|----------------------|----|
| 1. | Web アンケート | 1 |
| (1) | 調査の概要 | 1 |
| (2) | 調査結果 | 1 |
| 2. | イベント参加者へのアンケート | 11 |
| (1) | 調査の概要 | 11 |
| (2) | 調査実施内容 | 12 |
| (3) | 調査結果 | 13 |
| 3. | アンケートのまとめ | 14 |

1. Web アンケート

(1) 調査の概要

再エネ発電施設の導入等に対する亀岡市民の意見や意向を把握することで、再エネゾーニングのための基礎資料を作成することを目的とし、Web アンケートを実施した。アンケートの実施内容及び回答結果は以下に示すとおりである。

表 1-1 調査の概要

| 項目 | 内容 |
|------|--|
| 調査名 | 亀岡市 STOP 温暖化！再エネアンケート |
| 調査期間 | 令和5年10月25日（水）～令和5年11月5日（日） |
| 調査方法 | Web でのアンケートフォームの配信による回答（亀岡市公式 LINE や市 HP など） |
| 回答数 | 全 320 件（亀岡市内：300 件） |

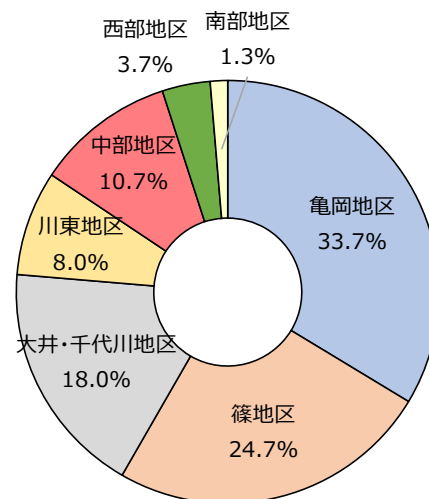
※当アンケートの百分率は小数点以下第2位を四捨五入しているため、割合の合計が100.0%にならないことがある。

(2) 調査結果

問1 お住まいの地域の特色を把握するため、居住地の郵便番号を記入してください。

アンケートの回答数は計 320 件であり、そのうち亀岡市市外からの回答及び郵便番号が不明などの 20 件を除き、亀岡市内の回答は 300 件となった。「亀岡地区」の回答数が最も多く、101 件（33.7%）、次いで「篠地区」が 74 件（24.7%）、「大井・千代川地区」が 54 件（18.0%）と市街化区域からの回答が全体の 75%以上を占めている。

| 地区名 | 回答数 | 回答率 |
|----------|-----|--------|
| 亀岡地区 | 101 | 33.7% |
| 篠地区 | 74 | 24.7% |
| 大井・千代川地区 | 54 | 18.0% |
| 川東地区 | 24 | 8.0% |
| 中部地区 | 32 | 10.7% |
| 西部地区 | 11 | 3.7% |
| 南部地区 | 4 | 1.3% |
| | 300 | 100.0% |

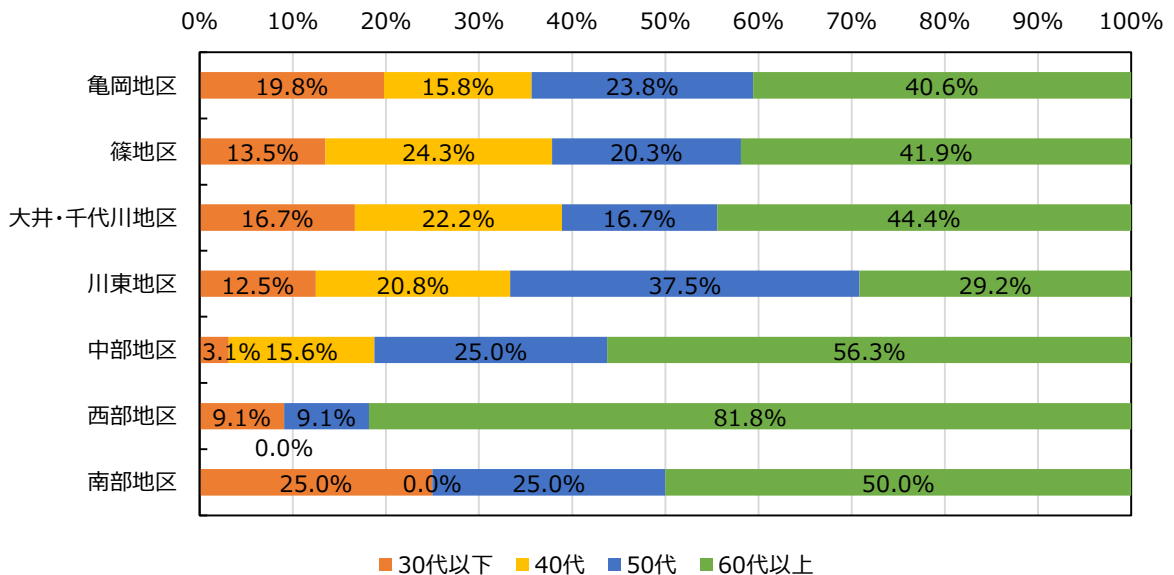
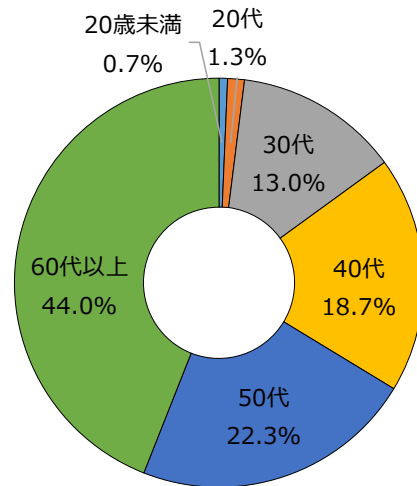


問 2 年齢について当てはまるものを選んでください。

回答者の年齢は、「60代以上」が最も多く132件で44.0%となった。次いで「50代」が67件(22.3%)、「40代」が56件(18.7%)となっており、年齢層の高い方の割合が多いことがわかる。なお、「20歳未満」、「20代」の回答がそれぞれ約1%と大変少ないため、「30代」と合算し「30代以下」の若年層として集計を行った。

地区別にみると、回答者の多い亀岡地区は全体と比較し、「30代以下」の若年層が多く、「60代以上」の高年層の割合が低いことがわかる。

| 選択肢 | 回答数 | 回答率 |
|-------|-----|--------|
| 20歳未満 | 2 | 0.7% |
| 20代 | 4 | 1.3% |
| 30代 | 39 | 13.0% |
| 40代 | 56 | 18.7% |
| 50代 | 67 | 22.3% |
| 60代以上 | 132 | 44.0% |
| 計 | 300 | 100.0% |



問3 あなたは再生可能エネルギーを自宅で利用したいと思いますか。

「思う」との回答が211件で70.3%と全体を大きく占めており、次いで「どちらでもない」が75件(25.0%)、「思わない」が14件(4.7%)となった。

また、再エネの利用意向を「思う」を1点、「思わない」を-1点、「どちらでもない」を0点として加算し、「思う」の意向が高いエリアは、点数が高くなり濃い色で表示されるようヒートマップ化を行った。市街地を中心に色の濃いエリアが分布していることから、再エネの利用意向は市街地の方が高いと考えられる。

| 選択肢 | 回答数 | 回答率 |
|---------|-----|--------|
| 思う | 211 | 70.3% |
| 思わない | 14 | 4.7% |
| どちらでもない | 75 | 25.0% |
| 計 | 300 | 100.0% |

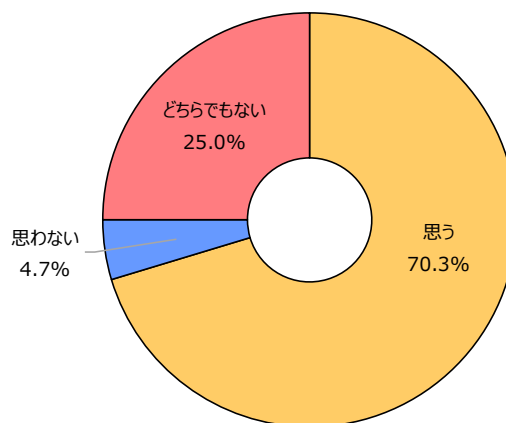
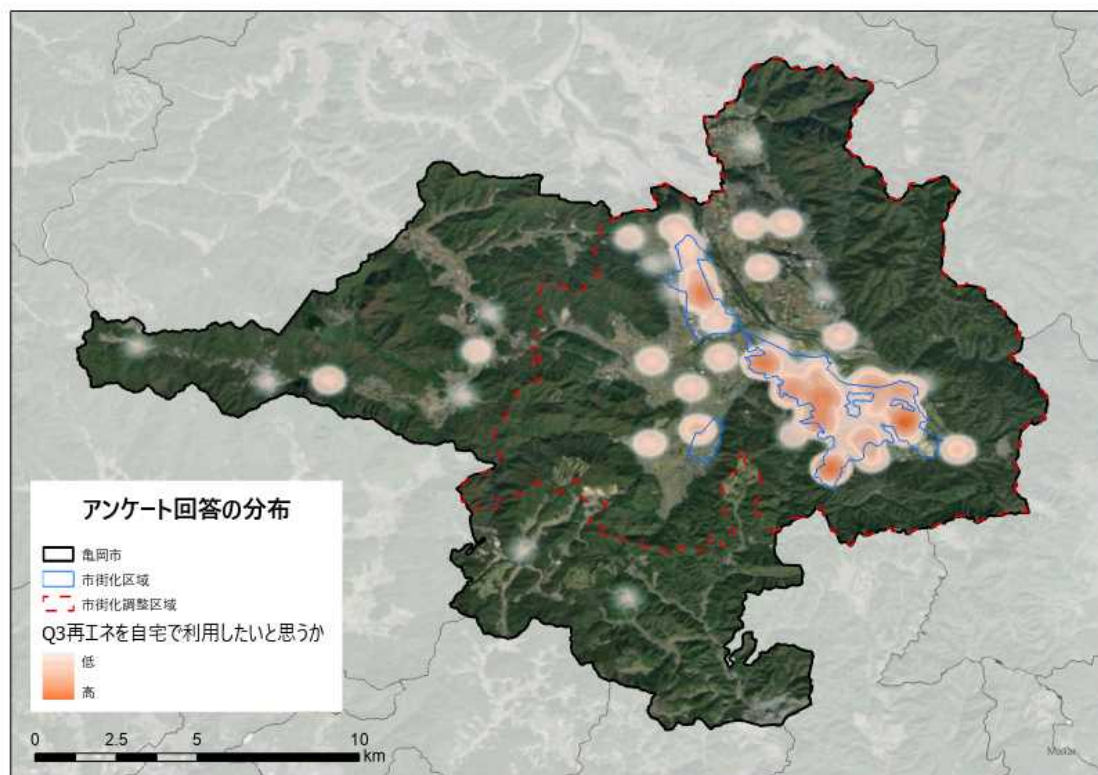


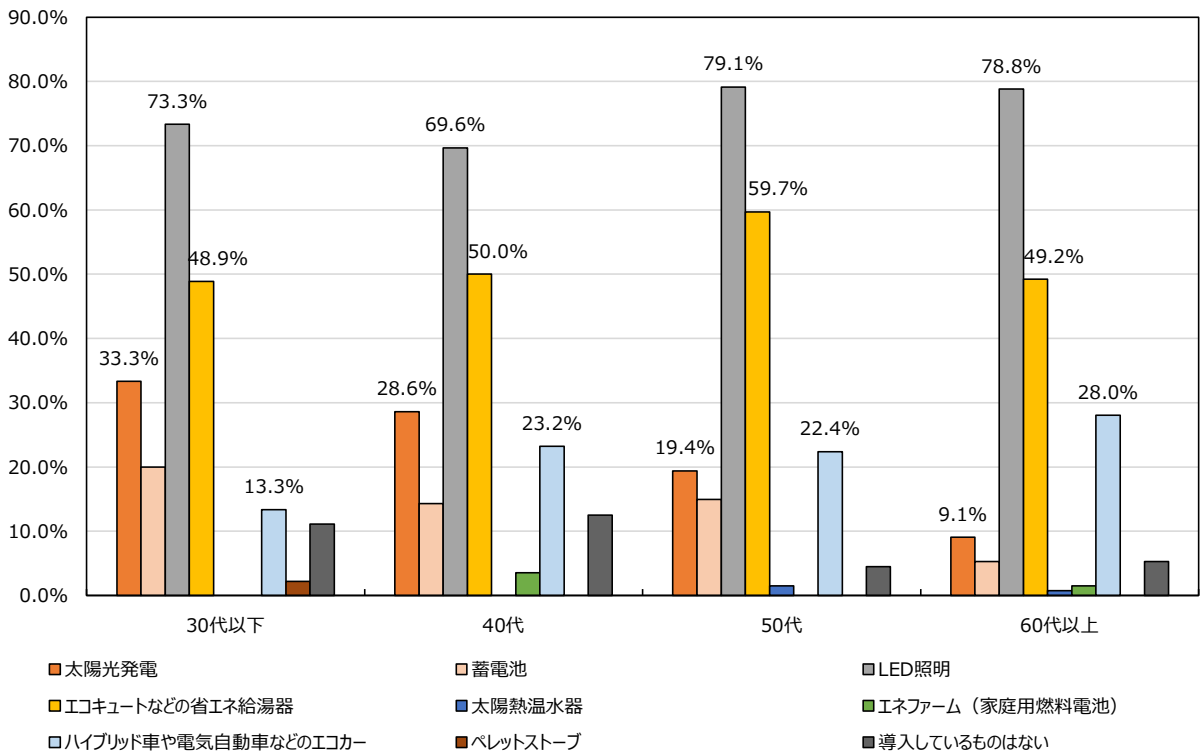
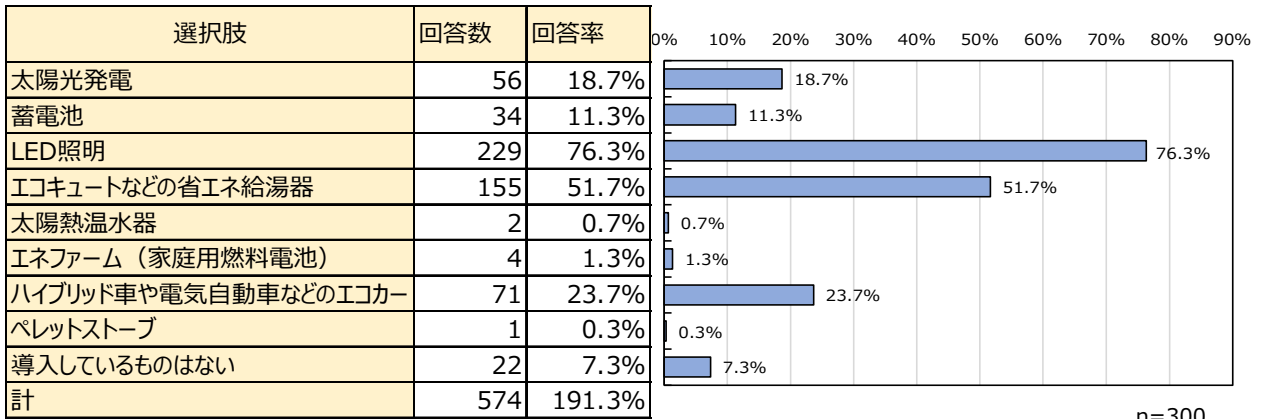
図 1-1 再エネの利用意向の分布



問4 あなたが自宅で導入している再エネや省エネ設備について、当てはまるものをすべて選んでください。

「LED照明」との回答が最も多く、229件で76.3%となった。次いで「エコキュートなどの省エネ給湯器」が155件(51.7%)、「ハイブリッド車や電気自動車などのエコカー」が71件(23.7%)となっている。

年代別にみると、「LED照明」と「エコキュートなどの省エネ給湯器」はどの年代でも導入率は高く、「太陽光発電」の導入状況は30代以下、40代と若年層の方が、導入率が高いことがわかる。一方で「ハイブリッド車や電気自動車などのエコカー」は高年層の導入率が高くなっている。

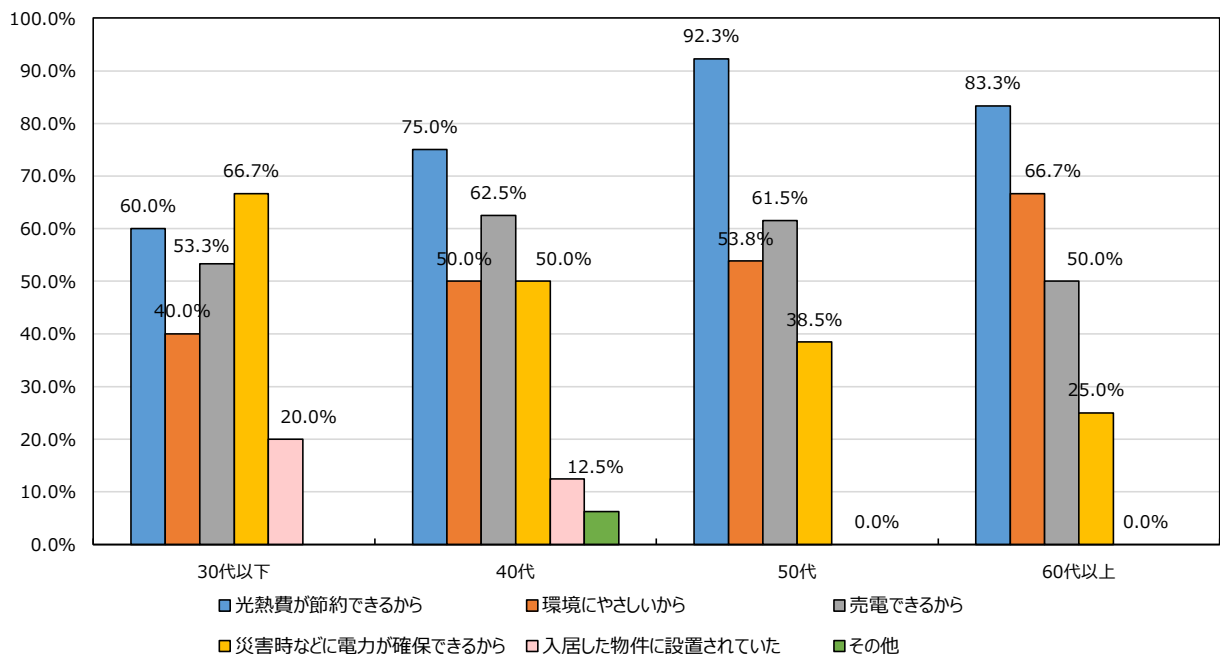
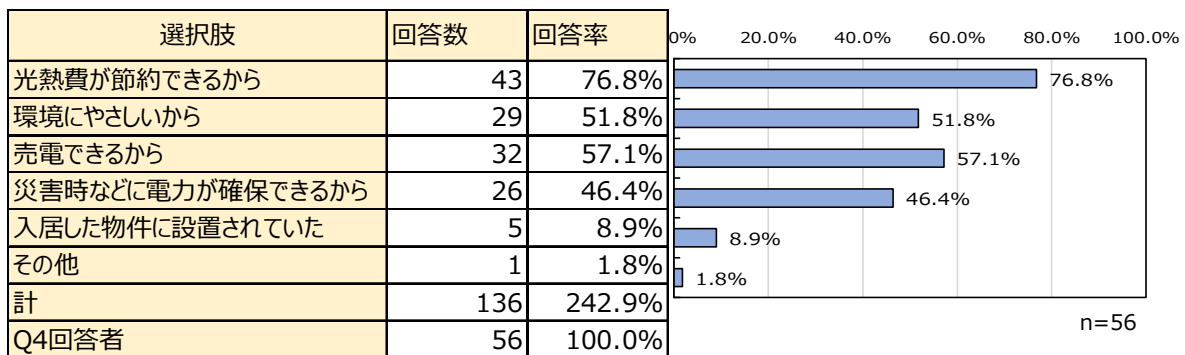


問 5-1 問 4 で「太陽光発電」と回答した方に伺います。

太陽光発電を設置した理由について、当てはまるものをすべて選んでください。

太陽光発電を設置した理由について「光熱費が節約できるから」との回答が最も多く、43 件で 76.8% となった。次いで、「売電できるから」が 32 件 (57.1%)、「環境にやさしいから」が 29 件 (51.8%) となった。

年代別にみると、40 代以上では「光熱費の節約ができるから」との回答が最も多くなっている。40 代、50 代では次いで「売電できるから」との回答が多く、費用を重視している方が多いことがうかがえる。また、「環境にやさしいから」との回答は 60 代以上が最も多く、年代が高くなるにつれ回答者の割合が多くなっているのに対し、「災害時などに電力が確保できるから」との回答は 30 代以下が最も多く、若年層になるほど回答者の割合が多くなっており、世代によって関心が異なることがわかる。

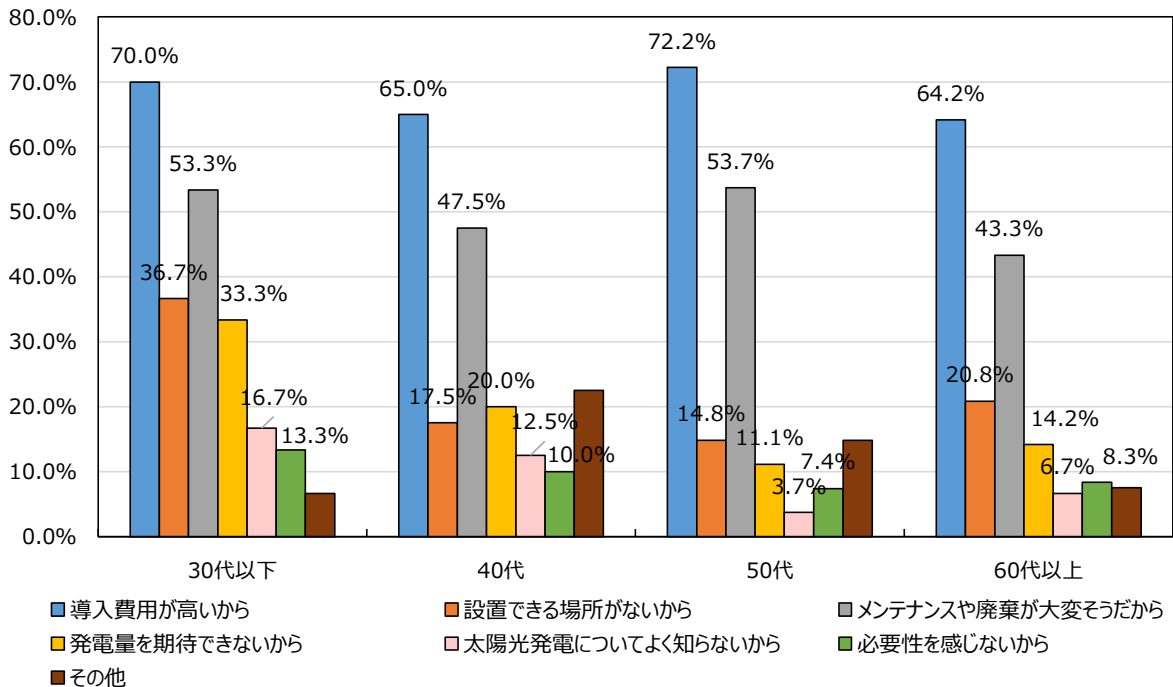
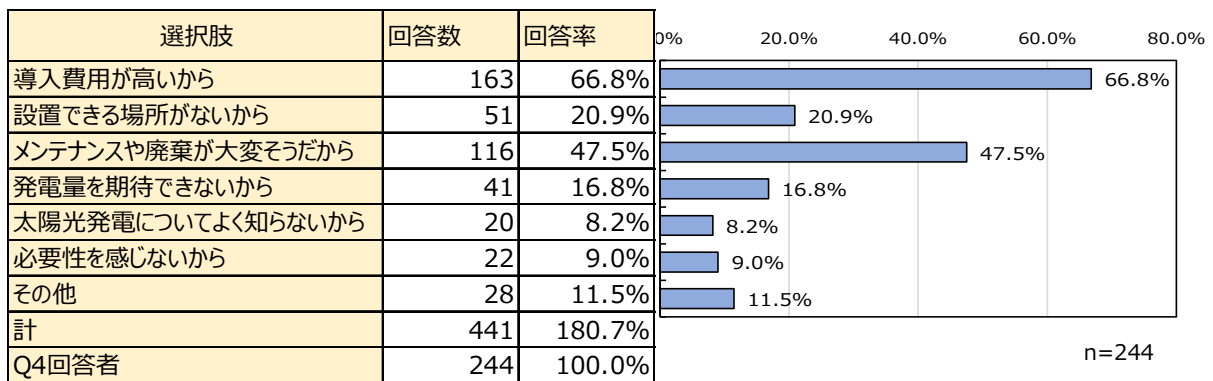


問 5-2 問 4 で「太陽光発電」以外を選択した方に伺います。

太陽光発電を設置していない理由について、当てはまるものをすべて選んでください。

太陽光発電を設置していない理由について、「導入費用が高いから」との回答が最も多く、163 件（66.8%）となった。次いで「メンテナンスや廃棄が大変そうだから」が116 件（47.5%）、「設置できる場所がないから」が51 件（20.9%）となった。

年代別にみても、「導入費用が高いから」との回答が最も多く、次いで「メンテナンスや廃棄が大変そうだから」が多いことから、亀岡市民が重視する懸念事項であることがうかがえる。また、「設置できる場所がない」との回答については、30 代以下、次いで 60 代以上の割合が多く、住宅の所有形態や築年数などの課題があると考えられる。

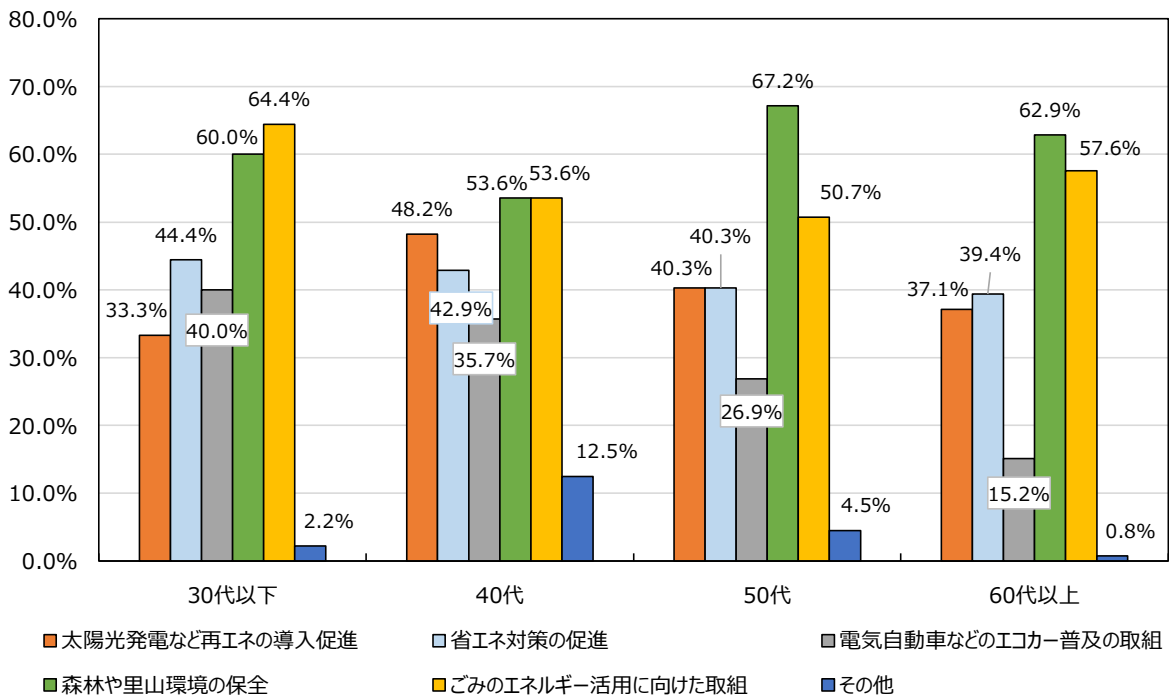
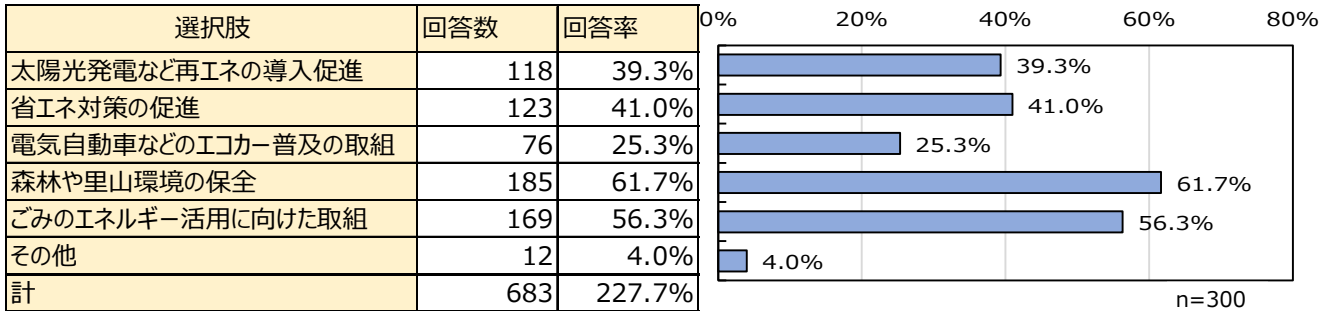


問 6 温暖化対策として、亀岡市が重点的に取り組むべきことは何だと考えますか。

当てはまるものをすべて選択してください。

「森林や里山環境の保全」との回答が最も多く、185 件で 61.7% となった。次いで「ごみのエネルギー活用に向けた取組」が 169 件 (56.3%)、「省エネ対策の促進」が 123 件 (41.0%) となった。

年代別にみると、30 代以下では「ごみのエネルギー活用に向けた取組」との回答率が最も高いのに対し、50 代、60 代以上では「森林や里山環境の保全」との回答率が最も高くなっている。また、「省エネ対策の促進」は若年層の方が関心は高いと考えられる。



問7 問6で「太陽光発電など再エネ導入促進」を選択した方に伺います。

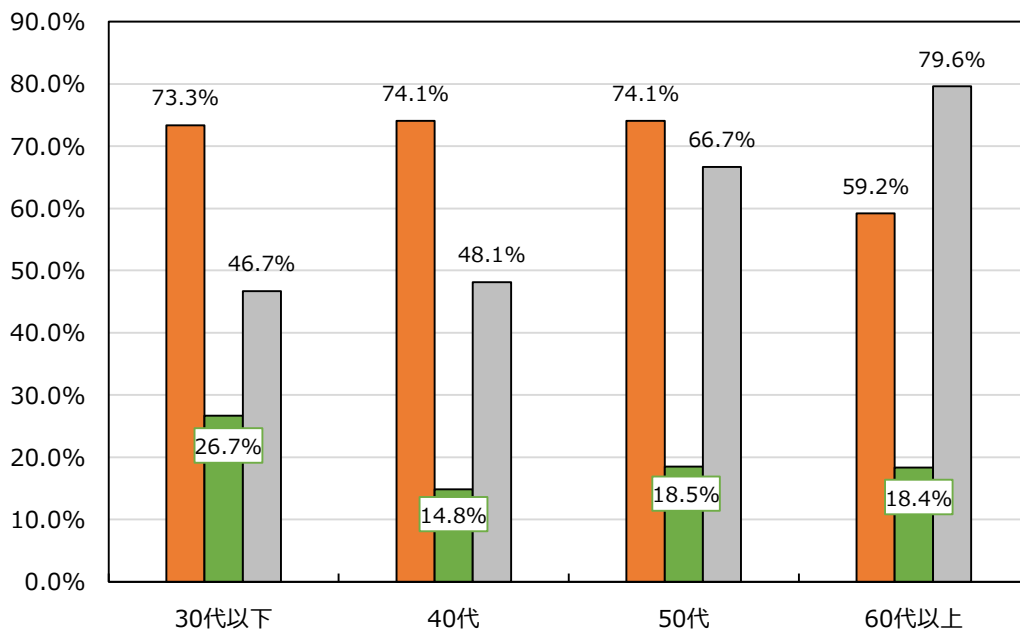
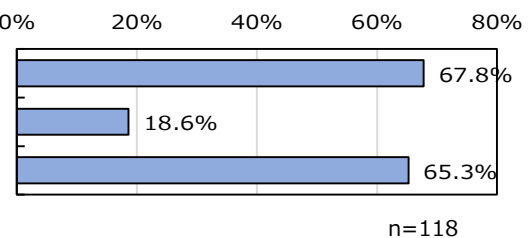
亀岡市内のどのような場所に太陽光発電設備を導入すればよいと思いますか。当てはまるものをすべて選んでください。

「住宅や工場など市街地の屋根」との回答が最も多く、80件で67.8%となった。続いて、「耕作放棄地や遊休地などの未利用地や法面」が77件で65.3%、「農地やため池」が22件で18.6%となっている。

年代別にみると、「住宅や工場など市街地の屋根」の回答率は30代以下、40代、50代で70%以上と最も高い項目となっている。また、「耕作放棄地や遊休地などの未利用地や法面」との回答率は年代が上がるにつれ高くなっていることがわかる。



| 選択肢 | 回答数 | 回答率 |
|---------------------|-----|--------|
| 住宅や工場など市街地の屋根 | 80 | 67.8% |
| 農地やため池 | 22 | 18.6% |
| 耕作放棄地や遊休地などの未利用地や法面 | 77 | 65.3% |
| 計 | 179 | 151.7% |
| Q6太陽光、再エネの導入促進 回答者 | 118 | 100.0% |

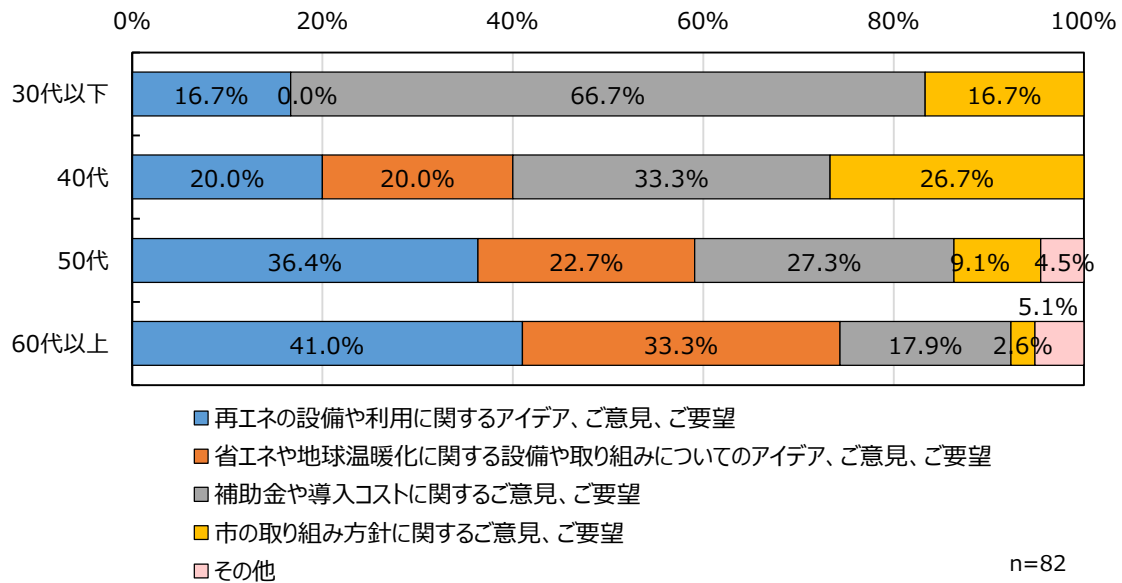


■ 1.住宅や工場など市街地の屋根 ■ 2.農地やため池 ■ 3.耕作放棄地や遊休地などの未利用地や法面

問 8 再エネの普及に向けたアイデアやご意見があれば記入してください。（自由記述）

82名の市民の方からご意見をいただいた。意見は「再エネの設備や利用に関するアイデア、ご意見、ご要望」、「省エネや地球温暖化に関する設備や取り組みについてのアイデア、ご意見、ご要望」、「補助金や導入コストに関するご意見、ご要望」、「市の取り組み方針に関するご意見、ご要望」、「その他」の5つに区分した。

30代以下と40代では再エネや省エネに関する補助金や導入コストについての意見が多くみられ、50代、60代以上では再エネの設備や利用に関するアイデアや意見、要望が多くなった。



自由記述の概要

いただいた意見について、誤記等を一部修正のうえ、多数の方からいただいた同様の意見についてひとまとめにした自由記述の概要は以下のとおりである。

| | |
|-----------------------------|--|
| 再エネの設備や利用に関するアイデアやご意見、ご要望など | ・公共施設（ギャラリー、市役所、市民病院、学校等）に設置 |
| | ・ゴミ処理熱で発電 |
| | ・ゴミや汚泥等から発生するメタンガスを電気や熱に活用 |
| | ・間伐材等を使ったバイオマス発電 |
| | ・保津川を活用した水力発電 |
| | ・水素利用 |
| | ・自転車発電 |
| | ・スタジアムの足元で振動発電 |
| | ・霧で発電 |
| | ・雷のエネルギーを蓄電する |
| | ・森林の活用 |
| | ・新築家屋に太陽光発電システム取付必須とする |
| | ・シートタイプの太陽光パネルの活用 |
| | ・再エネ施設の見学会を催す |
| | ・一概に導入すればいいのが議論が必要だと思う |
| | ・各自治会には停電時でも避難所としての機能を維持できるように設備を導入することも大事だと思う |
| | ・空地がたくさんあるので、災害時に備えて地区ごとに設置してあげれば良いと思う |
| | ・農地や耕作放棄地や遊休地などに大規模に作るのはいかなくて環境破壊になるので、建物の屋根に増やしていくのが良いと思う |

| | |
|---|--|
| 省エネや地球温暖化に関する設備や取り組みについてのアイデアやご意見、ご要望 | ・公共の電車やバスを電気自動車にする |
| | ・自家用車を使わなくて済む交通システム |
| | ・電気自動車の充電器の場所を増やす |
| | ・薪ストーブなどのエコな暖房器具について行政が導入や調達をサポートするシステムを作る |
| | ・家庭の生ごみのコンポスト化 |
| | ・家庭ごみの活用、再利用 |
| | ・食品トレイや梱包材の削減 |
| | ・エコバックの使用 |
| | ・紙資料ではなくタブレットやパソコンを利用する |
| | ・エコキュートの設備を増やしてほしい |
| | ・まずは誰でも出来る小さなことからやっていく |
| | ・一人一人が無駄のないよう必要な分を消費する |
| | ・プラごみについて処分方法がわかりにくい |
| ・亀岡市どれくらいごみ処理能力があるのかわかれば、もう少し丁寧な取り扱いができると思う | |

| | |
|----------------------|-------------------------------------|
| 補助金等導入コストに関するご意見、ご要望 | ・太陽光発電の導入に補助金を出してほしい |
| | ・電気自動車、エコカーの購入に補助 |
| | ・ごみ処理機の補助金を5万ぐらいにしてほしい |
| | ・蓄電器の補助金 |
| | ・補助金や普及のPRがあれば考える人は多いと思う |
| | ・個人では導入費用が難しい |
| | ・投資費用にお金をかけたくない |
| | ・初期費用がかかるため高齢者はあとどれくらい利用できるかを考えてしまう |

| | |
|--------------------|---|
| 市の取組の方針に関するご意見、ご要望 | ・個人で行う省エネには限界があるので、自治体や企業が大規模な省エネを実施しなければならない |
| | ・お店や企業への働きかけも必要 |
| | ・亀岡市が、住人の屋根を借りて太陽光発電パネルを設置して、賃貸借料を払うか、都市計画税の減免などを検討して、保守も亀岡市が担い、亀岡市の事業者を選定する事で亀岡市で、お金を回して、普及が進み省エネの町になるのではないか |
| | ・賃金を上げて町を活性化し、町にお金が落ちて資金が増え、合理的なエネルギー普及を検討する |
| | ・亀岡市は霧が多くて太陽光発電は向いていないと思う |
| | ・恣意的にやらないでほしい |
| | ・温暖化進行による影響と自分にもできる取組みの効果を広く周知する |
| | ・このようなアンケートで再エネについて知ること大事だと思う |
| | ・促進を考える時は、申請の分かりやすさも考慮してもらいたい |

2. イベント参加者へのアンケート

(1) 調査の概要

「1.Web アンケート」に加えて、より幅広い年齢層の市民の意向を調査するため、市が主催する環境イベント「保津川の日」において、参加者を対象としてパネル式のアンケートを実施した。アンケートの調査内容は Web アンケートの問 7 と同様に、「亀岡市内において太陽光発電を導入すべき場所」について何うものであり、野外イベントにおいて参加者が簡単に参加できるようにパネル式のアンケートとした。アンケートの内容と結果は以下に示すとおりである。

表 2-1 調査の概要

| 項目 | 内容 |
|------|--|
| 調査名 | 亀岡市 STOP 温暖化！再エネアンケート 亀岡市内のどのような場所に太陽光発電設備を導入すればよいと思いますか？ |
| 調査日時 | 令和 6 年 3 月 3 日（日）午前 10 時～午後 2 時 |
| 調査方法 | イベント参加者によるアンケートパネルへのシールの貼付 |
| 回答数 | 130 件 |



図 2-1 アンケートに使用したパネル

(2) 調査実施内容

会場の企業ブース前において、イベント参加者にアンケートの内容を説明の上、一人一枚シールを配布し、以下の項目について、該当する欄にシールの貼り付けをお願いした。

1. 住宅や工場など市街地の屋根
2. 農地やため池
3. 耕作放棄地や遊休地などの未利用地や法面



図 2-2 アンケート調査の様子

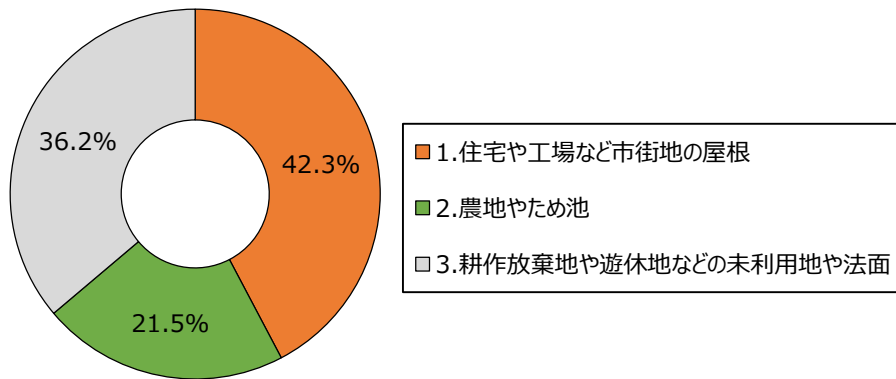
(3) 調査結果

午前10時から午後2時までの約4時間、アンケート調査を実施した結果、計130名の回答があった。回答の内訳は、「住宅や工場など市街地の屋根」との回答が最も多く55件(42.3%)であり、次いで「耕作放棄地や遊休地などの未利用地や法面」が47件(36.2%)、「農地やため池」が28件(21.5%)となった。

Webアンケートにおいても、「住宅や工場など市街地の屋根」との回答が最も多く、次いで「耕作放棄地や遊休地などの未利用地や法面」、「農地やため池」となっていることから、市民の意向に同じような傾向があると考えられる。



図 2-3 アンケートの最終結果



3. アンケートのまとめ

令和5年度では、Webアンケートとイベントを活用した路上アンケートを併用し、全部で430名の方に回答いただいた。Webアンケートでは、「60代以上」が44.0%、「50代」が22.3%と高年層の回答が多かった一方、イベントでは、小学生以下やその保護者等の若年層の回答が目立った。

両アンケートに共通する設問である「亀岡市内のどのような場所に太陽光発電設備を導入すればよいと思いますか」という問いに対して、どちらのアンケートにおいても「住宅や工場など市街地の屋根」が最も多く、次いで「耕作放棄地や遊休地などの未利用地や法面」、「農地やため池」となった。

「屋根」の回答が最も多かった要因については、亀岡市が重点的に取り組むべきこと（Webアンケート問6）で、「森林や里山環境の保全」との回答が最も多い点や、イベント参加者からも環境の保全に関する意見があったことから、農地や遊休地を活用することによる環境への影響を懸念していることが推察される。

また、「太陽光発電を導入済み」（Webアンケート問4）との回答は18.7%となっており、その他の省エネ機器に比べて低いことがわかる。自由記述やイベント参加者の意見では、導入費用やメンテナンス費用、廃棄等に関する懸念が多く見られ、再エネ導入における今後の課題と考えられる。

